

令和3年度 第5回医療系フォーラム実験小委員会 議事概要

I. 日 時： 令和4年3月24日（木） 14:00～16:00

II. 場 所： 公益社団法人 私立大学情報教育協会

III. 出席者： 片岡主査、神原委員、廣井委員、原島委員、山元委員、小原委員、中山委員、二瓶委員、川島委員、井端事務局長、森下主幹

III. 資料

- ① 令和4年度の実験授業日程検討表
- ② 2022年度の実験授業案について
- ③ 第4回委員会議事概要

IV. 議事概要

1. 次年度の実験授業について

本年度の実験授業では、情報コミュニケーション学部の学生の参加を得たことで、かなり発展的な展開ができたことを確認し、2022年度は3年生にこだわることなくさらに発展的な実験授業を展開することにして、次年度の実験授業の進め方を検討した

(1) 本年度の実験授業の授業評価について

委員から、本年度の実験授業に参加した学生に対して行った「学生インタビュー」で得られた学生の授業評価について以下のように報告された。

① コミュニケーションについて

参加した学生から、「オンラインでのコミュニケーションの工夫」や「他学部の学生と協働することで視点の違う意見を理解すること」などを通じて「対面でなくてもコミュニケーションが取れることを体感したことが確認された。

② グループメンバーとの学習について

参加した学生から、「グループ内で安心できる環境・場の設定の工夫」「誰の意見も否定しない、何でも言えるような工夫」、「各学部の特徴を捉え、テーマにつなげる工夫」などを行い、ディスカッションの中で妥協点と解決策を作ることを優先して取り組んだことなどが確認できた。

③ 他学部とディスカッションや協働したことについて

参加した学生から、「他学部との授業は刺激的、深い知識を得ることができる」、「その後の自分の専門領域で、幅広い専門知識を生かせる」、「それぞれの領域の強みを生かすことの意義を学んだ」、「自大学のディスカッションでは出てこない意見があり、面白かった」等の意見が寄せられ実験授業の効果が確認できた。

④ 今回のPBLを通じての貴方自身の成果

参加した学生から、「今後の学修意欲の高まりと能動的学習、「感染拡大を抑制する知識を身につける必要性」、「他分野の知識の獲得（社会保障、心理学など）の必要性」、「他者に説明する能力と知識の獲得する必要性」などが寄せられ実験授業の効果が確認できた。

また、課題として、「本授業の目標が達成されたかの精査」、「授業回数と課題設定のあり方と期間設定の検討」、「オリエンテーションの内容やあり方の検討」、「他学部の専門領域を知ることとブレイクアウト方法」、「問題発見と整理から解決策の説明までの5回の授業方法の検討などであることが報告された。

(2) 主な意見

① コミュニケーションについて

学生が、オンラインでのコミュニケーションの工夫や他学部と協働することで視点の違う意見の理解を獲得などに取り組んでいることは良かった。

② グループメンバーとの学習について

学生がプロダクトをまとめる際に学部を代表して考えることや全体の中で自分の発想で考えることなど、各学部の特徴を捉え、テーマにつなげる工夫は不十分であった。

③ 他学部とディスカッションや協働したことについて

協働してプロダクトを作成できたことは意義があり参加学生満足度も高い。

ディスカッションの中で妥協点と解決策を作りやり切ったことが大事である。

④ 問題発見に際して解の有る問題に流れる傾向がある。自分の問題として考えることで社会の問題も変わってくるが、それができていない。

⑤ 個人の問題は良くできていたが、テーマのまとめに反映されていなかった。

⑥ 何が身についたか、明示しないと到達度評価が難しいが、検討して参加学生にフィードバックすることも検討する必要がある。

⑦ 解のあるテーマでゴールを求めるのは今の学生の気質であるがゴールのための学修ではなく自分はどうするかを求めたい。

⑧ グループの答えも大切であるが一人一人が何を考え気づいたが大事であるこれができるれば良いのではないか。

※ グループプロダクトを作成しないと学生の「やる気・学びが」深まらないが、一人一人の学生が「何を考え・気づいたか」も大事である。

以上のような意見を踏まえて次年度の実験授業を検討した。

2. 2022年度の実験授業について

2022年度の実験授業は、2021年度の実験授業で得られた以下の問題点を改善し、より高い成果が得られるよう、以下のように授業設計を行った。

I. 2021年度の実験授業の問題点

1. 実験授業として取り組んだが、本授業の目的が不明確であった。

2. 学生の意見の反映

① 自分の専門分野を説明する難しさ

② 他学部の学生が何を学んでいるか知りたかった

③ 学生同士がディスカッションする時間が不十分

④ 授業間隔が短く、大変だった。

3. グループとしての課題設定が難しかった。

II. 2022年度授の実験授業（案）

1. 授業の目的

多分野からの取組みを踏まえて、自分分野の専門性を活かした多職種連携の取組みを考える。

2. 学修成果

多分野の学生の視点と自分分野の専門性を活かしながら、コロナ禍時代の医療・健康生活についての課題を抽出し、対応策を考えることができる。

3. 学修到達目標

1) 自分分野の専門性を説明できる。

2) 他分野の学生の専門性を理解できる。

3) 自分の意見を分かりやすく他者に伝え、他者の意見を傾聴し、積極的で効果的なグルー

ブ討議ができる。

4) 問題の中で何が課題か重要な視点を認識し、優先課題を決定できる。

5) 課題への対応のために、エビデンスの高い適切な情報を活用できる。

6) 設定した課題について、実現性を考慮した対応策を提案できる。

7) 課題の決定プロセスと課題への対応策について、学修レポートを作成できる。

4. 対象学生

学年は問わない。2 グループで各分野 1 名とする

5. 授業進行案

1 回目 6/2(木)

オリエンテーション (アイスブレイキング)

課題Ⅰ：コロナ禍における実体験に基づく医療・健康の課題と対応について

個人提出 (6/20)

2 回目 6/9(木)

お互いの専門性の理解 (ファシリテーター不在)

3 回目 6/23(木)

コロナ禍の実体験を中心に医療・健康課題を共有する

自己主導型学修 各分野で取組む最優先課題を検討(同じ分野の学生が協議)

4 回目 7/28(木)

2 グループ合同で各分野の最優先課題に対して他分野の意見を求める。

自己主導型学修 課題に対する対応策を検討する(同じ分野の学生が協議)

5 回目 9/1(木)

2 グループ合同で各分野の最優先課題とそれに対する対応策の説明

課題Ⅱ：コロナ禍における医療・健康の課題と対応について 個人提出 (授業終了後)

※ 課題Ⅰを基に3回目のディスカッションを行う。課題ⅡとⅠの比較により、今回の授業の教育効果を評価する。

6. ファシリテーター

グループ1：小原先生 グループ2：川島先生

7. 評価

授業終了後提出した、課題Ⅱについて、ルーブリック評価を行う。

8. 参加学生の募集について

各委員から意欲のある学生に参加を呼び掛けていただきことで募集する。

- ・情報コミュニケーション系：1～4年生の希望者
- ・社会福祉系：3年生中心に希望者
- ・栄養系：4年生の希望者
- ・医学系：4年生が良いと思うが3年生も検討
- ・歯学系：3～4年生
- ・薬学系：3年生
- ・看護系：3年生か4年生で検討

9. その他

実験授業の倫理委員会審査は昭和大学で行う。

3. 次回委員会

令和4年4月27日(水) 16:00とする。

